



CIRのつぶやき

国際交流 国際理解教育 国際協力
国際観光 多文化 相互理解友好を図る



2025.12.01 第68号 世界中のユニークなクリスマス飾り①

クリスマスの時期になると、世界中の人々が家を華やかに飾ります。日本でも、もちろんクリスマスツリーやリースで家や店を飾りますが、他の国々には独特な飾りがあります。飾りは、その国の習慣をより深く理解する良い機会だと思います。これから紹介するユニークなクリスマス飾りを皆さん見たことがあるでしょうか？



たまたま、アメリカのクリスマスツリーで、ピクルスの飾りを見かけることがあります。他のクリスマスの飾りと一緒に飾られているのは、面白いですね！しかし、これはただの面白い飾りというだけではありません。ツリーのどこかに隠れていて、クリスマスの朝に見つけると、新年に幸運が訪れることや、サンタさんからもうひとつのプレゼントをもらえるという習慣があります。多くの人がこの習慣はドイツの移民者から伝わったと信じていますが、実際にはアメリカで始まりました。19世紀に、ドイツやヨーロッパの飾りはとてもオシャレだと思われていて、様々なデザインが販売されていました。その中でも、フランスとドイツからきた果物と野菜の飾りは特に人気がありました。現在でも、ピクルスの飾りはドイツにちなんだ飾りとされ、ドイツで販売されています。どうしてピクルスが選ばれたのか、誰もはっきりした理由は分かりませんが、南北戦争やサンタさんの伝説に関連した説など様々あります。これから、クリスマスツリーをもっとよく見てみたらピクルスを見付けられるかもしれません！



ウクライナでは、クリスマスツリーをクモの巣で飾る人がいます。理由は昔話からきています。ある貧しい家族が、クリスマスツリーを買えるお金がなかったので、家の土間にまつぼっくりを植えました。松の木が生えましたが、飾りのためのお金がありませんでした。クリスマスの朝に、ツリーにクモの巣がかかっていて、窓を開けると、朝日を浴びてクモの巣が金色に光っていました。驚いたことに、クモの巣は本物の金の糸になって家族はもう二度と貧しい生活を送ることはませんでした。このお話から、ウクライナではクリスマスツリーにクモの巣をかけたら、幸運とお金を招く象徴とされました。話はとてもおもしろいと思いますが、クモが苦手な人には、ツリーにクモの巣がかかっているのを見たら、びっくりすると思います！





CIRのつぶやき

国際交流 国際理解教育 国際協力
国際観光 多文化 相互理解友好を図る

滝川市
TAKIKAWA-CITY

2025.12.01 第68号 世界中のユニークなクリスマス飾り②



ギリシャでは、昔、クリスマツリーではなくて、クリスマスボート(船)を飾る習慣がありました。ギリシャはたくさんの島から出来ていて、乾燥した気候が特徴です。なので、クリスマツリーのような飾りは適していません。そのため、みんなが一番馴染みのある「船」を飾りました。多くの人が漁業で働いていたので、長い間船乗りと会えない家族にとって、無事に船が戻る景色を見ることは、なんと嬉しいことでしょう。このことが、船がクリスマスの幸せの象徴になった理由の1つだと考えられています。その他の理由は、サンタさんの伝説の元となった聖ニコラウスが、船乗りの守護聖人ということです。現在では、クリスマツリーももちろん飾りますが、共にクリスマスボートも飾ります。とてもきれいで、光でできた船のように見えます。



ヒンメリというフィンランドの飾りは、なんとオシャレなモビールですね！北欧の国々には似ている飾りがありますが、フィンランドの場合、昔はクリスマスから真夏まで食卓の上に飾っていて、「今年も良い作物が収穫できますように」という意味がある飾りです。何百本、何千本の藁からできています。藁の真ん中に糸を通して、三角形、四角形、ダイヤモンドの形に括ったりして、誰でも自分の好きなデザインを作れます。

フィンランドでは、ヒンメリ作りの講座が人気となっています。フィンランド人にとって、自分の文化遺産に繋がる機会になります。そして、オシャレな飾りにもなるので、ワインワインですね。

日本でも、ヒンメリは人気があるそうです。北欧ブームとともに、ヒンメリについて調べてみたら、数え切れないウェブサイトが出てきて、作り方まで説明されています。クリスマス以外の時期でもオシャレな飾りなので、興味があれば、是非自分のヒンメリを作ってみてください！

